



亀井神道流 西日本吟詠会総本部 広報部  
題字: 波多江啓峰

# 吟友



雪景色の竈門神社

## 新年祝詞

西日本吟詠会 最高顧問  
太宰府天満宮 最高顧問

西高辻 信良



謹んで御皇室の弥栄と御国の平安を心より祈念申し上げます。

さて、太宰府天満宮では、御祭神・菅原道真公にゆかりの深い二十五という数字に因み、二十五年毎に式年大祭を執り行つてまいりました。令和九年に道真公が薨去なされてから二二五年という大きな節目を迎え、「菅原道真公二千百二十五年太宰府天満宮式年大祭」を斎行いたします。

御本殿は、約四三〇年前に筑前国主小早川隆景によって再建造営されたもので、桃山時代の豪壮華麗な建築様式を今に伝え、国の重要文化財に指定されております。しかしながら昨今は、屋根の檜皮や漆塗りの損傷も激しくなつてまいりましたので、大祭を迎えるにあたり、檜皮の葺替・漆の塗り直しをはじめとする大改修工事を令和五年五月二十三日より開始いたしました。

工事に先立ち、約三年間限定の仮殿が無事竣工しました。仮殿建設にあたり、私の長男である宮司は、「御自身が文化の最先端を切り拓かれ、文化芸術の神様としての信仰も篤い天神様に何より喜んでいただき、ご参拝の皆様にも喜んでいただけるもの、そして伝統を引き受け未来へと受け渡していく為に令和の時代に応答するものにしていただきたい」との思いを持ち、世界的に活躍されている藤本壮介氏に設計を依頼いたしました。着工から竣工に至るまでも、何度も当宮へ足を運んでいただき、素晴らしい設計案を現実のものにしていただきました。また、御帳と几帳も当宮とこれまでも御縁のあった黒河内真衣子氏のファッションブランド「Mame Kurougouchi」に手掛けていただき、古来の手法と現代の技術の中に当宮の様々な視点からの記憶が込められた優美な佇まいとなつております。是非、太宰府にお出ましの際には、約三年間の特別な仮殿にてお参りをいただければ幸いです。

末筆乍ら、西日本吟詠会会員各位の御多幸をお祈り申し上げます。

# 登札神龍



# 翔べ神獸

今年の干支は「甲辰」(きのえたつ)即ち龍年です。

本会とも親しい関西吟詩文化協会正洲会高師範の三戸善義先生は、吟詠もさることながら、書画にも卓越した才能の持ち主です。

以前「虎」の絵をご寄稿頂きましたので覚えていた方もおられることでしょう。今回も、ご多用中の処、たつてのお願いを申し上げたところ快諾頂いた次第です。

さて素晴らしい水墨画に相応しい詩歌を考えたいのですが、「登龍門伝説」や「龍虎相撃つ」等の詩文は頭に浮かぶものの「龍」に特化した詩文にはなかなか出会うことが出来ませんでした。

唯一、入門当時触れたことのある「龍池篇」という律詩があったことを思い出しました。

この詩は、初唐の詩人沈佺期が、皇帝中宗即位に際して献上した詩で、皇帝を龍に譬えてその天徳を説き、国民を天下百川の水に譬えて、来朝して帰る莫かれと結んでいます。

中国では古来、龍は、「神獸」とされ、皇帝のシンボルとなっていて、最上級の意味で用いられてきました。

詩意としては、多分におべっかの帝、皇帝を喜ばそうと辞を弄したのですが、その詩文は、絢爛流暢な名詩として知られていて、唐の律詩中第一級の名作と言われています。

皇帝中宗は、余程嬉しかったのでしよう。沈佺期に象牙の笏と緋色の衣を下賜しています。

## 「龍池篇」 沈佺期

龍池 龍踊つて龍已に飛ぶ

龍徳 天に先つて天違わず

池は 天漢を開いて黄道を分かち

龍は 天門に向かつて紫微に入る

邸第 楼台気色多く

君王 鳧雁 光輝有り

為に 報ず 寰中百川の水

此地 来朝して 東に 帰る莫かれ

### 「詩意」

龍(玄宗皇帝)は、皇太子時代住んでいた屋敷に在った龍池より躍り出て、天子の御位にお就きになられが、帝の生まれながらにして備わった御徳は、正に帝王の御徳そのものであらせられた。

龍池は、龍が天に上れるように力を与え、即ち龍は天子として踏み行くべき事柄を御身に付けさせられて、天子の御位に就かれたのです。

こうして、お屋敷の高殿も気色に溢れ、帝に仕える文武百官をはじめお池の水鳥たちまでも尽く光輝に溢れ、この国も前途を祝福致しております。

この英邁な天子をお助けして、更に国家の繁栄を計る為には、国民全部の持てる力を結集し、必ず違背する者があつてはならないのです。





明けましておめでとうござい  
ます。亀井神道流西日本吟詠  
会会員及び後援会会員の皆様  
におかれましては、令和6年の  
輝かしい新年をお揃いで和やか  
にお迎えのこととお慶び申し上  
げます。

早いもので、令和の御代も六  
年目を迎えることとなりまし  
た。「光陰矢の如し」正にそのス  
ピードの速さに只々驚くばかり  
でございます。

ついこの前、本会の創立九十周  
年を皆様と祝つたばかりと思っ  
ていたのに、この秋、私達は創立  
九十五周年を迎えることとな  
りました。五年前のプログラムに  
眼を通していたところ、ご来賓  
や会員の約三分の一の方が鬼籍  
に入られたり引退されたりされ  
ており、愕然とした次第であり  
ます。少子高齢化の波が正に大  
波となって押し寄せていたこと  
を改めて痛感したところです。

とは申せ、いつまでも、やれコロ

ナだ、やれインフルエンザだ、やれ  
少子高齢化だと、嘆いてばかり  
もおられません。幾多の先人た  
ちが数々の苦難に出会いながら  
もその荒波を乗り越えて守って  
来た歴史と伝統をここで見捨て  
る訳にはいきません。

幸いにして今年、私達には目  
の前に目標ができました。約一  
年をかけてやり遂げる事業が  
あります。ピンチをチャンスに変  
える目的が到来しました。久々  
にというより五年ぶりに心身共  
に燃えるチャンスに巡り合ったよ  
うな気がしています。

今年は辰(龍)年です。龍は架  
空の動物で神獣とされ様々な諺  
に登場します。その一つに、「龍の  
水を得る如し」があります。龍  
が水を得て昇天するように時  
期を得て大いに活躍することを  
言うそうです。この言葉にあや  
かつてみたいと思っています。

又、「龍に九似有り」と言われ  
るように、「角は鹿」「頭は駱

駝」「目は鬼」「身体は蛇」  
「腹は蟹」「鱗は鯉」「爪は鷹」  
「掌は虎」「耳は牛」に似ている。  
実に良いところ取りの力強く逞し  
い身体の持ち主で羨ましい限り  
です。

私は機会がある度に「私達の  
会は、誰のものでもない、会員  
皆のものです。そして、会に貢  
献する方法はいくつもありま  
す。その内、どれでもいいので実  
行して下さい」と申し上げて参  
りました。

ここで、「龍の九似」に肖り、も  
う一度申し上げます。

①「会員の勧誘活動」②「会員  
の指導」③「会の運営に協力す  
る」④「教材の購入販売に協力す  
る」⑤「各種研修会で吟詠表現  
力を磨く」⑥「各種大会に出場  
する」⑦「地域の文化活動に参  
画する」⑧「各種行事に参加す  
る」⑨「浄財を提供する」

西日本吟詠会の維持発展の  
ために、初心に帰り、もう一度自  
分には何が出来るかを考えて  
実行に移して頂きたいと願って  
います。

さて、私達の大切な財産は「の  
ど」です。出来れば保険を掛け  
たくなるくらいの気持ちです

が、特に空気が乾燥する冬場は  
のどの管理が大切となります。  
日頃に増して、うがいや手洗いの  
励行が望まれています。

私は、のどのイガイガや急な  
咳き込みによく効くのだ餛を  
いつも傍に置いたり、携帯した  
りしていたのですが、昨春秋か  
ら入手が困難になって困ってい  
ます。いつもの薬局に問い合わせ  
せたところ、一部の銘柄が集中  
して外国人の爆買いにあつてい  
るとのことでした。差し障りが  
あるかも知れませんが、因みに  
愛用ののだ餛の銘柄は「龍角  
散」です。入荷の予定は全く  
立っていないとのこと。代用品  
探しの最中です。

のど餛はともかく、新年を迎  
えて思うことは、今年こそは健  
康で、無理をせず心身ともに充  
実した一年を過ごしたいと思っ  
し、年末には、老骨にもこんな気  
迫が残っていたのかと思えるよ  
うな年にしたと願っています。

会員及び後援会員及び吟友  
の皆様におかれまして、今年も  
健やかで穏やか心安らかな一年  
でありますよう、心から祈念申  
し上げます。



年男・年女

七廻り目の

辰年を迎えて

宗師

野村 聡陽



新年明けましておめでとう  
ございます。

会員の皆様におかれましては、お揃いで和やかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

令和六年の四月五日が、私の誕生日です。振り返ってみますと、私は三歳の時「赤痢」にかかり、死の直前までいつて一命をとりとめています。

小学校の健康診断の際、診療所の「湯毛先生」がよく言われていたのが、「あなたのお父さんから『おれの子供を殺すのか』と言われ、それから二日も欠かさず診察に行きました。本当に元気になって良かった」それが恥ずかしいやら感謝の気持ちやらで、複雑な気持ちでいっぱいでした。この事か

ら八十一年が過ぎたことになります。今は感謝の気持ちでいっぱいです。

高校迄行かせていただき福岡市役所に就職し四十二年。

嘱託で七年併せて四十九年務め、詩吟との出会いは三十歳の時。職場で皆で「お謡い」を習いに行こうという事になったのですが、私は若かったせいか、「お謡い」より詩吟を始めた。これがたまたま詩吟をやっている「高野君」の耳に入り、諫山岳陽先生の教室に連れて行かれたのが切っ掛けになります。詩吟を習って五十四年になります。詩吟の良いところはスタートがあつてゴールが無い。この事が一生続けられる大きな要因に思えます。私は詩吟をやめる事はないでしょう。

私は前号の「我が家の座右の銘」で書かせていただいた「おだやかな心で、のんびりのんびり」二日一日を大切に生きたいと思つています。

皆様のご指導をよろしくお願ひいたします。



何も彼も

有難いです

宗師範

松嶋 蓮陽



新年明けまして、お目出度うございます。紀元二千六百年。辰年良き年に誕生しました。今年で八十余年の人生を迎えることになりこれも詩吟を続けたことです。詩吟を初めたのは、今から四十五年前、大谷桂陽先生の門下で、色々の大会に出吟することになり、頑張つて来ました。私が生徒さんに教えることになり、会員さんが吟士権を頂かれるようになるまで、指導出来、皆さんが和気あいあい楽しんで下さつた事、有難いと思つています。これからも指導に励んで行きます。詩吟のお陰でいろいろの方と出会い楽しい日々を送ることが出来ました。昨年、太宰府市吟詠剣詩舞連盟40周年大会で、感謝状を戴き有難度いことでした。これも、諫山岳陽宗家会長のお陰です。これから詩吟を楽しみに頑張つて行きたいと思つています。今年も、良き年でありますように、折つております。

十二月一日の

生まれです

師範代

内田 龍陽



当時皇紀二六〇〇年といつて大変なお祭りの年であつたと、後年になって聞きました。私の名前も、それに由来しています。平成二十年、足掛け四十五年勤務したケミカル商社を退職しました。近くのゴルフ練習場で田中親陽先生との知遇を得て詩吟との出会いが始まりました。まさに七十歳からの手習いで、学生時代に詠んだ唐詩、宗詩がお手本の中に何首も出て来て大変懐かし、本気で学んでみようと思つ意を新たに致しました。諫山宗家先生からも直々に「指導を頂いたことも大きな励みになりました。佐藤二斎は「少にして学べば則ち壯にして為すことあり。壯にして学べば則ち老いて衰えず。老いて学べば則ち死して朽ちず」と教えています。兼好法師は「人皆死ある事を知りて待つこと急ならざるに、覚えず来る」と教えています。今を大事にして生き抜き学んでゆく覚悟です。先

生方ご指導よろしくお願ひ致します。

辰年によせて

師範代

松岡 葵陽



辰は十二支の中で、唯一空想上の動物で諸説ありますが、どこまでも上昇していくと言ふ私の勝手なイメージで好きな干支です。

今から十二年前の辰年に、西日本吟詠会に巡り合へ、ご縁を感じております。

先生方にも恵まれ今日まで頑張つてます。この御縁と感謝の心を大切に桜梅桃李で精進してまいります。これからも御指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

現在、夫との二人暮らしで、長男と次男は、春日市と大野城市におります。

私もお笑い番組が大好きですが、長男が落語にはまつており、時々、博多駅の近くのホールで催される、落語会に誘つてくれます。

先日は、桂文珍師匠の独演会に行つて、大笑いして参りました。



## 新婚当時の思い出

シリーズ 18

西日本吟詠会後援会 副会長  
太宰府天満宮顧問 前権宮司  
森 五郎(妻)森 弘子

私は、昭和44年4月太宰府天満宮に神職として奉職致しました。大学3年秋に西高辻信貞宮司様からお声をかけていただき有難く存じています。

4月1日入社の時、これ又西高辻宮司様が「太宰府天満宮文化研究所」を創設され、その研究員第一期生として(妻)当時石村弘子が採用され同期生であります。特に「太宰府・太宰府天満宮史料」又「宝満山の調査・研究」が目的でした。

当時の天満宮は、宮司以下神職・巫女・事務職・管理員約70名が奉職致しており、新幹線が博多に乗り入れ、九州高速自動車道が開通し太宰府インター完成で参拝者も増え昭和52年斎行の「太宰府天満宮1075年大祭」へ向けて大変活気がありました。私は、二年目で権祢宜に昇任し、総務部へ配置となり、「教員資格」も有していましたので、「天満

宮幼稚園」主事も兼務又、社報「飛梅」の編集担当と成りました。丁度「宝満山の調査・研究」中の石村弘子へ「現況報告」を「宝満山歴史散歩」として連載を依頼したところ快諾!!それから二人の交際が始まりました。二年程経過した昭和46年4月22日西高辻信貞宮司様御夫妻の御仲人により「天満宮余香殿」にて「結婚式並びに披露宴」を挙げさせていただき、両方の両親兄妹・親族・御来賓の方々からも喜んでいただき大変有難く心より感謝致しております。



結婚披露宴 西高辻信貞宮司様御夫妻の御仲人にて

無事式も終え、新婚旅行は鹿児島徳之島へ素晴らしい青い海・白い砂浜の海岸にて4月の二人だけの海水浴でしたが、暑い太陽で日焼けして大変だった事だけ覚えています。



新婚旅行 徳之島・戦艦大和の碇前にて

結婚後、二人の新居は神社近くの借家でしたが、小鳥居寛二郎権宮司様より「定遠館」隣の家を社宅扱いにして住むよう御配慮賜り約4年間過ぎました。その後借金してマイホームを建設、丁度昭和50年4月でした。(妻)弘子は、当時2人の子供の母親として、更に「宝満山の調査研究」を続けて6年間、西高辻宮司様より一冊の本として出版を進めて下さり、昭和50年9

月8日天満宮「文華殿」にて西高辻宮司様始め著名なる先生方が発起人となり「出版祝賀会」が開催され、新聞にも大きく取り上げられ、各方面より高く評価されました。

その後も「調査・研究」を続け新婚時代より半世紀60歳に成り(妻)弘子は、平成19年10月に九州大学より「人間環境学府」博士号の学位が授与され、更に平成25年及び平成29年の二度に亘り「文部科学大臣」より表彰を受け誠に光栄な事でありました。

妻は、新婚時代より結婚出産を機に研究を辞めようと

思った事もありましたが、西高辻宮司様始め多くの方から励まされ続け今に至っています。「宝満山」は「縁結びの神様」とも言われますが、さまざまな人との縁が繋がって半世紀余りも研究を続けられてきたことを考えると不思議な気持ちです。

この傍にいた(夫)五郎は「明日も白衣袴を着用して天満宮祖霊殿に出社し御神前に額づき、御神徳の高揚と氏子崇敬者・信徒の皆様方の無事平安と弥栄をお祈りします」とつぶやいた。

弥栄



# 快川吟詠会創立五十周年 記念祝賀会盛大に開催!!

## 吟界重鎮多数参列

公益社団法人関西吟詩文化協会公認快川吟詠会(小林快川会長)主催創立五十周年記念祝賀会が昨秋九月三日(日)大阪府堺市「ホテルアゴラー」ジェンシー大阪堺で開催された。

後援は、愛国詩吟総連盟、大阪府詩吟連連盟・関西吟詩文化協会総本部で、祝賀会には地元永藤英機堺市長や元国務大臣笹川 堯氏らが祝辞を述べた。



祝辞中の山岡哲山先生

吟界の重鎮吟道哲山流興風吟詠会宗家会長山岡哲山先生や日本吟詠総連盟西山啓峰理事長をはじめ、愛国詩吟総連盟池田哲星理事長や大阪府吟剣詩舞道総連盟山口華雋理事長等錚々たる連盟のトップが招待され特別来賓として臨席した。

剣詩舞界からは、大日本正義流剣舞術神義館多田正満館長や大日本正義流詩舞同

好会多田正稔会長らが参列。大会は、五十周年記念番組と式典及び祝宴の順に進行した。

会員吟詠は、会員全員による会詩大合吟と、男女会員に

別れての大合吟に続いて、辰巳快水、岸本快伸両副会長による連吟「平和の鐘」が披露され、一糸乱れぬ吟声と節調に盛大な拍手が贈られた。



女子会員大合吟「宝船」



岸本快伸先生(左)と辰巳快水先生(右)

このあと、特別番組として、来賓の吟道鶴洲流会長河野鶴聲先生が、和歌「四方の海」と「烏江亭に題す」を披露、又、山岡哲山先生と小林快川会長の連吟「兵児の謡」が、美事な呼吸で披露され、万場の観客から拍手喝采を浴びた。



会長吟詠中の小林会長

続いて来賓剣詩舞に移り来賓の大日本正義流多田正満、多田正稔両先生による「両英雄」が、勇壮に華麗に舞われ、祝賀会に華を添えた。



「両英雄」を熱演中の両多田先生

式典では、主賓の祝辞が続き、哲山流興風吟詠会会長山岡哲山先生は「自分と小林先生は、六十五年の長きに亘る交友で「貧交行」の管鮑の交り、そのもの」と小林先生の包容力を讃え戦国時代の名僧

快川和尚と同名の快川先生の奮起に期待されました。壇上では、表彰、感謝状贈呈に続き、記念品贈呈が行われ、小林会長には、花東が贈呈された。



花束受ける小林会長

尚、本会諫山宗家は、ポリドール吟詠会会長代行として招待され、プロに祝辞を寄せると共に式典では登壇し、紹介された。



鏡開き風景 (小林会長左端・諫山宗家右端)

アトラクションは、小唄新内界で大活躍中で、映画テレビ舞台出演でも知られる重森三果先生が美声を披露、又、中

国の伝統芸能「仮面の早変わり芸」を取り入れたマジシャンの垂空垂SHIN氏によるマジックショウが会場を大いに沸かせた。



重森三果家元の熱唱



変面 マジックショウの一コマ

福引きは、会長の出身地堺が自転車の産地ということもあつて高級自転車三十台が準備され、当選者が決まる度に大いに賑わった。



乾杯風景(左から2番目西山啓峰先生)

祝宴の最後は、関西吟詩文化協会元老の芳倉清峰先生の万歳三唱で幕を閉じた。



# 吟道佐賀松風会創立70周年 故山下松風四代会長追悼 記念大会開催

吟道佐賀松風会(寺町松博会長)主催創立七十周年記念並びに故四代山下松風会長追悼大会が去る令和五年十月二十九日(日)佐賀市ガーデンテラス佐賀ホテル&リゾート(旧マリトピア)で開催された。主な後援先は、佐賀県・佐賀市・佐賀県芸術文化協会・佐賀市文化連盟・佐賀県吟剣詩舞道総連盟・佐賀県邦楽芸能協会・西日本地区吟詠剣詩舞連盟で、坂井英隆佐賀市長らが来賓として参列、大会を祝った。

吟界からは、地元連盟や西日本地区吟連関係者が招待され、祝意と祝吟を披露した。

大会の冒頭、歴代会長をはじめ、物故者への黙禱が行われ、早速式典に入った。

式典では、坂井英隆佐賀市長が祝辞の中で「初代会長は戦後の混乱期の中で、青少年の健全な育成の為に「吟」を通して活動された」と、その功績を讃えると共に、「今後更なる地域文化の向上に努めていたのだ」と佐賀松風会の活動に期待を述べられた。



4代会長  
故山下松風先生



祝辞中の諫山宗家



祝辞を述べる坂井佐賀市長

吟界を代表して挨拶に立った諫山宗家は、初代〜四代まで本会とは、深い交誼を賜って来ました。特に四代会長山下史眞子先生は、吟界以外にも、男女共同参画事業活動等で活躍され内閣総理大臣賞を授与されたことを讃え、追悼の言葉を述べました。



男性会員大合吟「大隈重信候を憶う」



女子会員大合吟「菊花」



アトラクション大和太鼓保存会による「祝奏」

式典後、構成吟「吟道佐賀松風会の七十年を辿る」が披露された。

ここでは、初代会長や三代会長の朗々たる吟声が披露される等、ユニークで懐かしい構成吟であった。

構成吟に引き続き、佐賀邦楽芸能協会会員による邦楽と和太鼓が次々と披露された。

先ず、泉 月之介会長の常磐津「老松」、次に生田流箏曲「千鳥の曲」、更に和太鼓二題が雄壮に披露された。



謝辞を述べる寺町会長



山中梅鈴・鈴鶯・梅鈴子親・娘・孫三代先生の連吟風景

来賓剣詩舞では、地元各会長が素晴らしい吟詠と舞いを披露、県外来賓の圧巻は熊本詩吟道日本吟声流宗主山中梅鈴先生、山中鈴鶯宗家、山中梅鈴子会長の親娘、孫三代による連吟、松口月城作律詩(和歌入り)の「母」の熱吟でした。

その卓越した吟声と節調に、満堂の観客席から万雷の拍手が贈られた。



万歳三唱の伊藤理事長

祝賀会は、佐賀県吟連理事長伊藤翠鳳先生の万歳三唱の音頭で盛會裡に終了した。



カラオケで熱唱中の  
山中宗家(左)と山中会長(右)



会員有志の皿廻し

大会終了後は、祝賀会が催され、かくし芸皿廻しや自慢の歌が次々と披露され、どこも佐賀の宴は最高潮に達した。

# 桜香吟詠会創立60周年記念 故鶴島会長三回忌追悼大会

長崎県佐世保市に本部を置く桜香吟詠会の創立60周年記念並びに創立者先代会長故鶴島桜香先生の三回忌追悼全国吟詠大会が、昨秋十月一日(日)J.R九州ハウステンボスホテルオークラで開催された。

桜香吟詠会の前会長鶴島桜香先生は、全国吟界で有名な吟詠家瓜生田山桜先生の末妹であり、朗々たる美声の持ち主で漢詩作家としても知られた吟詠家であった。



桜香吟詠会初代会長  
故鶴島桜香先生

大会には、日本吟詠総連盟理事長の西山啓峰先生をはじめ、県内外の吟詠家が招待され、盛大に開催された。

本会からは、秋季大会となった為、諫山宗家の名代として、野村聡陽宗師が出席し、祝意を述べ祝吟を披露した。

大会は、大会副会長の西浦桜隆先生の開会の辞で幕を開けた。



開会の辞を述べる西浦副会長

舞台は、桃山流芙蓉の舞会長の桃山玉舟先生による祝賀「祝賀の詩」が、祝賀大会に相応しく、華やかに披露された。



祝舞の桃山玉舟先生

続いて、会員吟詠に移り吟題は、全て故鶴島桜香先生作詩による漢詩で構成され、追悼、追善に相応しい企画が発表された。



会員吟詠風景

来賓剣詩舞では、地元長崎の秀月流剣詩舞道秀月会副会長の前田秀宝先生が、艶やかな舞姿で「静御前」を披露された。



「静御前」を舞う前田秀宝先生

西浦副会長で始まった記念式典では、日本吟詠総連盟西山理事長と長崎県吟詠詩舞道連盟前田龍吟理事長が来賓祝辞を述べた。



祝辞を述べる西山理事長



祝辞中の前田理事長

会長挨拶に立った前川任山会長は、来賓への謝辞と二代目会長として、吟道普及と地域文化の向上に努力したいと力強く述べられた。



前川大会会長挨拶

引き続き、会員表彰が行われ、功労賞と永年修練者に表彰状が授与された。式典後、来賓吟詠に移り県内外の錚々たる吟詠が、詩歌を披露した。

会場を移して催された祝賀会は、故鶴島桜香先生が賑やかなことが大好きであったというところで、アトラクションでは、中国伝統芸能変面シヨウをはじめ、カラオケ歌合戦で大いに盛り上がりに、楽しいひと時を過ごした。



祝宴風景(左・野村宗師)



# 太宰府市吟詠剣詩舞連盟 第四十回記念大会を祝う

太宰府市吟詠剣詩舞連盟（諫山岳陽会長）では、去る十一月十日（金）筑紫野市生涯学習センター「さんあいホール」で盛大に開催された。

太宰府市吟連は、昭和五十五年五月の結成で、本来であれば、数年前に第四十回の節目の記念大会が開催されることになり、案内状まで発送されていたが、新型コロナウイルス感染症大流行の影響で延期されて来たものです。

大会には、太宰府天満宮様をはじめ、地元行政関係者や近隣吟界の代表者らが多数出席し、記念すべき大会を祝った。

記念式典は、ご来賓の祝辞から始まり、先ず、太宰府天満宮最高顧問で連盟名誉顧問の西高辻信良様のご名代として参列された。同宮顧問森五郎様が「令和ゆかりの太宰府で、吟詠剣詩舞を通じて先人達に思いを込め地域の文化を続けられている連盟が四十年を迎えられることは、大変意義深くおめでたいことです」と祝意を述べられた。

次いで、今大会を機に、連盟の名誉会長に「就任の太宰府市長楠田大蔵様が挨拶に立たれ、四十年以上に亘る太宰

府市における吟詠剣詩舞の普及と振興に努めてこられたこれまでのご尽力に対し、敬意と感謝を申し上げ、今後の活躍と更なるご発展を祈念しています」と、市政四十年を迎えたことと重ね合わせてお祝いの言葉を述べられた。



祝辞中の森顧問



来賓祝辞中の楠田市長



太宰府市文化協会木村会長の祝辞

続いて太宰府市教育長の井上和信様、太宰府市文化協会会長木村基治様も心温まるご祝辞を述べられた。



諫山会長の謝辞

続いて、自由民主党第五支部長の栗原涉様からの祝露が披露された。

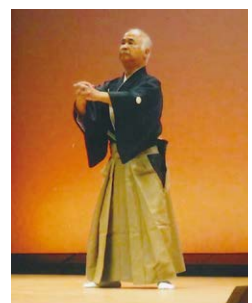
式典では、永年連盟の活動に貢献された黒川邦勝先生、吉塚香蘭先生、宮崎義都先生、坂口篤壽先生、伊藤桜朱先生に特別功労賞が贈られ、第一回大会より四十年連続出吟された高木仁陽先生、古澤奏陽先生、諫山星陽先生、松嶋蓮陽先生、平山恵陽先生、濱地錦陽先生、久保山孝陽先生に永年吟続表彰状が授与された。

式典の最後に、太宰府天満宮様への奉賛料が、連盟及び諫山会長から森顧問様へ贈呈された。

記念大会の「華」として、企画された構成吟では、「まほろばの里・太宰府に残る詩歌を尋ねて」と題して発表された。ナレーターは連盟役員の船木燦陽常任理事、伴奏は原國龍、原タカ子両先生で連盟会員の素晴らしい吟声と華麗で且つ勇壮な舞が、披露された。

午後の部では、連盟役員吟詠に続き、ご来賓による模範吟詠と模範演舞が続々と披露

され、祝賀大会に相応しい華やかな雰囲気の中進行した。



剣舞熱演の坂口先生



祝舞の榊原先生

大会終了後は、会場を二日市温泉「大観荘」に移して祝賀会が催された。

野村聡陽日本吟道奉賛会副会長のご挨拶に引き続き楠田太宰府市長の代理出席の原田副市長のご発声で開宴、久保山孝陽先生の名司会で進行。



乾杯の原田副市長

開宴早々、伊藤桜朱座長率いる二座の「大黒舞い」の場内一周により宴は一気に盛上がりを見せた。



大黒舞風景

会場内には「銘酒コーナー」も設けられ、銘酒「瀬祭」や西の関酒造「美吟」、焼酎「百年の孤独」等が振舞われ、愛飲家には大好評であった。宴は、カラオケ大会や福引きが行われ、フィナーレは恒例の総踊りで最高潮に達した。



総踊り風景の一コマ

祝賀会の最後は正義流政武館館長の河津義政先生による万歳三唱のご発声で声高らかに唱和し、大会を締めくくった。



万歳三唱の河津館長

# 第50回 ポリドール吟詠会 全国吟詠コンクール

## 決選大会開催

ポリドール吟詠会(総本部  
会長小林快川)主催第50回全  
国吟詠コンクール決選大会が  
去る十月九日(祝日体育の  
日)、大阪府大東市立市民会  
館大ホールで開催された。

全国各地区予選大会を勝  
ち抜いた優秀な吟士が、各部  
門毎に日頃の練習の成果を  
発揮し、素晴らしい吟詠を發表  
した。

九州山口本部からも多数  
出場したが、今回は特に山口  
地区の方の健闘が目立った。  
福岡地区からも入賞者は多  
かったものの上位進出はなら  
なかった。

大会は、青木博筈総本部副  
会長の開会の辞で幕を開け、  
優勝杯返還に続いて、山口華  
雫大会委員長が審査要綱を  
発表、幼少年の部から競吟が  
始められた。

恒例により、和歌の部、青年  
の部、壮年の部が、それぞれ、前  
半の部と後半の部に分けら  
れ、各部門の上位入賞者によ  
る順位決定選(決勝審査)が  
行われた。



大会委員長 山口先生



開会の言葉の青木大会副委員長

本会の諫山宗家は大会副  
会長と決勝審査員を務めた。

九州・山口本部からの決勝

和歌の部での成績は、山口の

桜楓流吟剣詩舞道会の後山

昭さんが第三位、本会の折居

英理子さんが第四位、決勝壯

年の部での成績は、同じく桜

楓流の野尻敬子さんが、第六

位という好成績での入賞で

あった。

あった。



和歌の部 第4位の折居さん

競吟終了後の会長挨拶と  
講評では、小林快川会長の軽  
妙な話術に盛大な拍手が贈ら  
れた。



講評中の小林会長

尚、急拠尺八伴奏の要請を  
受けた伊地知彰山先生が素晴  
しい伴奏を披露していただきま  
した。本当にお疲れ様でした。  
又ありがとうございます。



尺八伴奏中の伊地知先生(左)

大会の最後は、池田菖黎総  
本部副会長が閉会の辞を述  
べ、無事盛会裡に大会を締め  
括った。



閉会の言葉の池田先生

当日の本会会員の成績は次  
の通り。

### ◆幼少年の部

◎優勝 勝 池田夏音  
(太宰府慧陽会)

◎準優勝 積 池田郡颯斗  
(宮崎鶯陽会)



幼少年の部 優勝の池田さん(右)と  
準優勝の積池郡君(左)

### ◆和歌の部

◎第四位 折居英峰  
(北野真陽会)

◎入賞 野村真陽宗師範  
橋口康陽総師範  
池田慧陽師 範  
蒲池勝峰

◎奨励賞 萩森鶯陽宗師範  
(太宰府星陽会)

### ◆壮年の部

◎入賞 山口呂陽宗師範  
野村真陽宗師範  
橋口康陽総師範  
江藤炎陽師範代  
石橋舟月  
(吟友忠陽会)

◎奨励賞 萩森鶯陽宗師範  
梁池梁陽宗師範



本会の各部門入賞者



# 第52回 九吟連秋季親睦吟剣詩舞大会

## 盛大に開催!!

九州吟剣詩舞道連盟 諫山岳陽理事長(主催)、第52回秋季親睦吟剣詩舞大会がプラム・カルコア太宰府大ホールで開催された。新型コロナウイルス禍が未だ終息せず、インフルエンザ流行が懸念される中、出来得る対策を講じて実施された。



開会のご挨拶  
園山順光先生

大会は、園山順光大会総務の開会の言葉で開始されたが、時節柄、国歌斉唱や会詩合吟は今回も見送られた。

先ず、連盟の発足以来、活動と運営に功績のあった先人、先輩の御霊に感謝と御礼の誠心を込めて黙祷を捧げました。

恒例の合吟コンクールの前に、坂口篤壽大会委員長から審査規定が発表され、早速競吟が行われた。



審査規定発表の  
坂口大会委員長

合吟終了後は、会員吟詠の部に移り、地区理事、本部理事らによる独吟が、原國龍、原タカ子両先生による伴奏に合わせ次々と披露された。



伴奏中の原先生ご夫妻

大会のメイン企画、恒例の構成吟は、今年も、諫山岳陽理事長の企画、構成により、NHK大河ドラマで佳境に入った「どうした家康」を引用、「家康ゆかりの人々」と銘打って、家康を取り巻く武将縁の詩歌を中心に進められた。



桃山流内田先生の  
華麗な舞姿



「武田節」の喜衣流  
田畑さん



詩舞・桃山流  
田中玉笙先生

ナレーターは、定評のある西日本吟詠会中島光陽先生で、伴奏、吟詠、剣詩舞が三位一体となり、華やかに、あるいは勇壮に、そしてリズムカルに発表された。

本会からは、最優秀吟士権者を中心に出吟し、特に和歌朗詠部門で活躍した。フィナーレは、基鷺流吟詠会の吟士による歌謡吟詠と喜衣流喜衣会田原恵子さんによる華麗な詩舞で構成吟を締めくくった。



構成吟終了後の三方礼風景

会員吟詠では、加盟会員及び役員クラスによる独吟が次々と発表された。

又、九吟連ならではの、レベルの高い会員剣詩舞が披露され、観客から盛大な賞讃の拍手が贈られた。



「光秀挽歌」の米加田先生



桃山流会員群舞「富士山」

番組最後のプログラムは常任役員吟詠で、本会の筑後担当役員野村聡陽宗師は「早に白帝城を発す」を、連盟理事長を務める諫山宗家は、新体詩「心に太陽を持って」をそれぞれ朗々と吟じた。



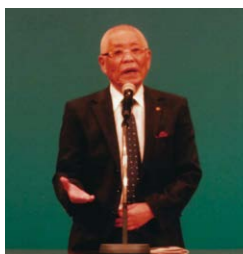
大会会長挨拶の  
諫山理事長

開会行事では、諫山理事長が挨拶に立ち「吟界全体の活動が縮小する中、合吟コンクールや構成吟での吟詠剣詩舞が盛大に実施されると共に、会員同志の親睦が深められることは誠に意義深く有難いことです」と述べた。



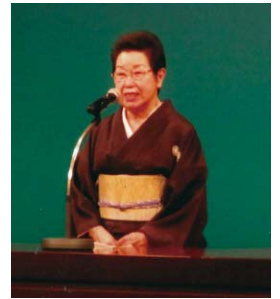
成績発表中の  
野村集計委員長

野村集計委員長による成績発表に続いて表彰式が行われ、諫山理事長より表彰状が授与された。



講評中の  
山下大会副委員長

恒例の講評では、山下白峰大会副委員長が「舞台上での心構えと意識の改革が大切」と講評を述べた。最後に、大会総務の有吉恵香先生が、閉会のご挨拶を述べ盛會裡に大会を終了した。



閉会のことば 有吉恵香先生

当日の本会の成績は次の通り。

◆合吟三人の部

◎準優勝Ⅱ香月美穂・小路絵美・森友子（吟友チーム）



準優勝 吟友光陽会チーム

- ◎第6位Ⅱ郷原菊代・藤波純子・古賀博子（岩戸チーム）
- ◎第7位Ⅱ武内チズヨ・大田好子・大神澄代（太宰府心陽会チーム）
- ◎第8位Ⅱ古賀誠一・前田和宏・山口和洋（古賀チーム）
- ◎第9位Ⅱ八尋征子・林谷典子・野田みち子（岩戸扇陽会チーム）

- ◎第10位Ⅱ富永延代・柘込ユキ子・往田久子（太宰府奏陽会チーム）
- ◎第11位Ⅱ倉内恵子・稲毛幸栄・白石美恵子（吟友光陽会チーム）
- ◎第15位Ⅱ森本賢策・蒲池勝洋・菅島功二（太宰府星陽会チーム）



岩戸扇陽会チーム



合吟入賞チーム代表者



西山理事長の挨拶

理事長の西山啓峰先生は、ご挨拶で、「二〇一九年から始

第四十二回、福岡県吟詠剣詩舞大会が、令和五年十月二十二日（日）福岡市西市民センターにて開催されました。プログラムには、県知事服部誠太郎様、福岡市長の高島宗一郎様の御祝辞をいただきました。

令和五年度「福岡市民芸術祭参加」  
第四十二回  
福岡県吟詠剣詩舞大会

またコロナ禍に苦しめられ、未だにマスクが離せない状態ですが、行動制限が大幅に緩和され、吟詠活動が容易になり嬉しい限りです」と述べられました。 会員吟詠では、本会から合吟5組と野村宗師が独吟で出場しました。



熱吟中の野村宗師



吟友光陽会チーム



太宰府星陽会チーム



香椎・中央地区グループの合吟



岩戸地区チームの合吟



太宰府地区女性指導者の合吟



吟友会グループの合吟



男性指導者の合吟



秋季大会開催

第五十五回秋季吟詠大会が、令和五年十月一日(日)プラム・カルコアの大ホールで開催された。

本日の大会は、合吟の部、指導者吟詠、役員吟詠の三部門に分けて実施されました。

大会式典では、大会会長挨拶と吟道証授伝式が行われました。諫山会長は「挨拶で、「新型コロナウイルスの影響で、止むなく延期と中止を続けてや」と開催にこぎつけたのですが、「コロナ未だ終息せず」の影響で、規模を縮小して、内輪だけの大会となりました。少々寂しい催しの感は否めませんが日頃は減多に聞けない指導者の吟詠をじっくり拝聴するのも意義あることと思います」と述べられました。コロナ禍で、よその剣詩舞は頼めない、吟のみ。しかし、初伝、奥伝、皆伝の会員が、男女別に次々と合吟を詠じるのは壮観でした。合吟コンクールでは、せいぜい十組位しか聞いたことがありませんからそれぞれ上手な合吟をきいて感動しました。指導者や役員吟詠も、それぞれ好きな吟題や、得意の吟題で、じっくり聞くことが出来ました。

大会会長挨拶の次に吟道証授伝式があり、閉会の言葉と万歳三唱で幕を閉じました。



会詩合吟誘導 古澤奏陽先生



伴奏の原國龍・原タカ子先生



授伝 池田夏音さん



授伝者の皆さん



開会のことば 古賀西陽宗師範



筑前今様誘導 諫山星陽副会長



女性会員合吟



男性会員合吟

最後に宮司よりご挨拶があった。大改修により四年後の令和九年に式年大祭が斎行されるにあたり御協力とお願いがありました。

続いて功労賞の表彰があり、最後に宮司よりご挨拶があった。大改修により四年後の令和九年に式年大祭が斎行されるにあたり御協力とお願いがありました。

今年(は)本殿が大改修中の為、仮殿での神事が執り行われた。西高辻信宏宮司が祝詞を朗々と奏上、その後各連合会代表による玉串奉奠が行われ、諫山岳陽西日本吟詠会支部長らが玉串を奉げた。神事終了後、会場を余香殿に移し奉幣大会が行われた。会場はコロナ感染も下火になり満席、全員で敬神生活の綱領を唱和した。

副会長 諫山星陽

崇敬会奉幣大祭



閉会のことば 鳥井幸陽顧問



講演中の西川京子氏

講演会では「歴史に学ぶ日本の未来」の演題で元衆議院議員、元九州国際大学学長の石川京子先生の講演があった。日本人の心、魂は素晴らしいと声を大にして語られた。又、天神様について詳細に語られ、一時間半の講演が終わり直会は、久しぶりの再会で声も弾み和やかな一時を過ぎた。参加者は、三十名でした。ご協力ありがとうございました。



挨拶中の西高辻信宏宮司



万歳三唱 豊福恒陽顧問

# 秋思祭で献吟

秘書部長 諫山 星陽

去る十月二十四日(旧暦九月十日)大宰府政庁跡で太宰府天満宮「秋思祭」が斎行された。

この日は晴天に恵まれ、コロナ禍も下火になり例年より多くの参列者が参加した。特設舞台の両側には、かがり火が焚かれ、幻想的な雰囲気の中で、厳かに神事が執り行われた。



西高辻宮司による祝詞奏上

西高辻信宏宮司による祝詞奏上に始まり巫女さんによる優雅な「悠久の舞」が披露された。次に福岡県無形文化財の「竹の曲」筑紫流箏曲による「夕かげ」が演奏された。吟道宰都館による今様入り「九月十日」を献詠、西日本吟詠会

は「秋思の詩」を献吟した。澄み切った空に響き渡り管公の御霊を偲び少しでも慰め出来たらと思いました。



「竹の曲」奉納



神楽舞「悠久の舞」



合吟「秋思の詩」献吟風景

終了後、西高辻信宏宮司は出演者に丁寧なお礼の言葉を述べられた。又京都より太宰府へ長い旅路をへて道真公の心に思いを馳せる祭典である。今は車を通り明るいですが、当地はとても違う印象の中でお過しだったと道真公の心情を思うと心が傷みます。  
今年の特設舞台に胡床を準備して頂き有難うございました。感謝申し上げます。  
寒い中、沢山の方に参加して頂き有難うございました。

## 秋の授伝・清めお祓い

令和五年九月十八日、太宰府天満宮本殿にて、授伝の清めお祓いが行われた。  
授伝者一人一人の名前が呼ばれ、諫山会長が玉串をささげてお祓い、全員で仮殿の前で写真撮影をした。



### 令和五年度授伝者名簿 〔幼少年の部一級〕

#### 〔初伝の部〕

池田夏音

名和龍川

原野保川

森 友川

森山義川

文屋鈍川

#### 〔中伝の部〕

夏梅千月

原田正月

沖 幸月

中川礼月

小川紀月

中村美月

早野俊月

朱雀恭月

柴田文月

芳澤佳月

#### 〔奥伝の部〕

池田莉山

池田華山

泉田千山

益永時山

田中久山

#### 〔皆伝の部〕

原 信峰

松原篤峰

中野正峰

梅崎道峰

小野律峰

住田博峰

船越薫峰

蒲池香峰

炉込幸峰

平嶋和峰

青柳寿峰

古川政峰

宗 國峰





# 美しい日本語 (鼻獨音について)

出版部長 中島 光陽

『鼻獨音』という言葉を知った事があると思います。

ガ行の濁音が、場合によって鼻音になることです。

では、どのような時に鼻音化されるのでしょうか？

いわゆる東京共通語では、次のような法則のもとに鼻音を使っています。(ガ行鼻獨音の仮名表記はカキケコとなります)

1. 語頭のガ行は、鼻音化しない。

学校 ガッコウ  
銀行 ギンコウ  
軍営 ゲンエイ

2. 語中語尾のガ行は、基本鼻音化する。  
大学 ダイカク  
柳 ヤナキ  
鶯 ウカイス

3. 助詞の「が」、助動詞の「ことし」等は鼻音化する。  
私が ワレカ  
雪の如し ユキノコトシ

4. 数詞の「五」は、原則鼻音化しない。  
十五日 ジュウゴニチ  
五十五 ゴジュウゴ

但し数詞としての意義が薄れた熟語は鼻音化する。

十五夜 ジュウゴヤ  
七五三 シチゴサン

例外はありますが、概ねこの様な使い方になります。

鼻獨音は「ンガ」「ンギ」「ング」「ンゲ」「ンゴ」と、小さな「ン」を入れ鼻に抜いて発音します。九州はもともと鼻獨音を使わない土地柄なので、難しいかもしれませんが、鼻音化すれば鼻腔の共鳴を伴って、響きのやわらかい音になります。正しい鼻音の発音は、聞き手の耳に快い響きを与えます。

石川さゆりさんの「津軽海峡冬景色(ツカルカイキョウフユケシキ)」の鼻獨音が美しいと言われています。

シンガーソングライターの三浦祐太郎さんは、母親の山口百恵さんに「鼻獨音の発音を意識して歌うと良い」と、アドバイスされたそうです。他にもNHKのニュースなどを注意して聴いて練習してみてください。

来年度の課題吟詠集は、鼻獨音を表記しています。

## 新シリーズ シリーズ②

我が家の

# 座右の銘

考(行)動力のある

上司に出合つて

宗師範 山口 呂陽

昭和三十八年に福岡県信連に入会し(農業金融業で、主にJAの金融指導等)まず初めに、飯塚支所に赴任し、嘉飯山地域の12JA等の預金の預かり、払い出し、そして銀行の取引また日々の伝票集計等の業務に六年間携わりました。

その後六部署、転勤を経験し、最後は総務課の職員として理事会関係、会内報の発行、退職者会等の業務を担当していました時に、人事異動で課長として川島氏が赴任されました。

名物課長とのことは良く耳にしておりました。特に何時も述べられる言葉は、考動力(企画の時間をかけるよりも起動修正が即出来るような企画をして、そして

実践していくことを)という言葉で、頭に植え付けられました。

また川島課長は、信連はもろろん地域貢献を行うためにJC(宗像青年会議所)に加入し、他の地域のJCの方々と交流をはかり、土日祭日でも積極的に参加され、実践され、当会に参考になるものについては、どしどし取り組まれました。

県信連に入会して八年目に、川島課長のような考えをもたれる上役が自分の目の前に現われて目が覚めたようになり、人との結びつき、絆を深化させ、人に役立つためには積極的に動くようになりました。

地域での活動が評価されたかどうか分りませんが、町から文化の日に、善行表彰を頂くことになりました。

考動力のある上司に出合ったからこそ、私の人生の考えの指針を与えて頂いたことに對し、何時も感謝を感じております。



## 語 人 声 吟

今年の「十干十二支」は「甲辰」(きのえたつ)です。「甲」は、十干の最初で第一位、優勢であることを表す他、まつすぐに堂々とそそり立つ大木を表すとも言われています。

▼「辰」は「十二支」の「龍」で唯一架空の動物であり、水や海の神として大自らの躍動を象徴しています。

▼今年、成功という芽が成長していき、姿を整えていくという縁起の良い年になりそうな運気を感じます。

▼又、龍は「四神」(青龍朱雀・白虎玄武)の一つで、それぞれ、東南西北を司る守り神とされています。

▼西を守る白虎(虎)は、令和四年「西」=「西日本吟詠会」を守ってくれました。東を守る青龍(龍)は、今年「言」に「東」の「諫山」を守って欲しいと願うのは、欲しいものではないでしょうか。

▼二年の計は元日に有り「龍頭蛇尾」となり、龍の逆鱗に触れないよう、胆に銘じて、この一年を大切に過ごしたいものです。(岳)

第三十回那珂川市吟詠舞道連盟吟詠大会

那珂川市吟詠舞道連盟会長

宗師範 小松 扇陽

去る九月三日(日)創立三十周年記念、那珂川市吟詠舞道連盟吟詠大会を、那珂川市中央公民館に於いて開催致しました。

本来ならば今大会は、創立三十周年記念大会として、近隣連盟の先生方もご招待し、盛大に実施すべきでしたが、コロナウィルス感染の終息が見込めない中、やむを得ず会員のみで規模を縮小して実施する事となりました。

毎回の大会時には、来賓としてご出席くださっています。那珂川市市長 武末茂喜様 福岡県議会議員 渡邊勝将様 那珂川市文化協会会長

山口志郎様 三名のご臨席を頂き、来賓挨拶をいただきました。

市長、武末様のご挨拶の中で、「十年以上、皆様の吟詠をきかせて貰ってるうちに、詩文の意味、個性的な表現力が伝わって来るように思われます」のお言葉に加え、私達の吟詠を最後まで真剣にきいて下さった事がこの大会での有

難さと慶びとなり、心から感謝いたしました。

会員吟詠、指導者吟詠に入り、自分の得意な吟題を原御夫妻先生の伴奏にのって朗々と発表されている姿は、コンクールと違った落ち着きに感銘をうけました。私は「祝吟、佐々木岳甫作」を吟じました。最後に名誉会長の渡邊昇陽先生に閉会の辞をお願いし万歳三唱で大会を閉めさせて頂きました。



閉会の辞の渡邊昇陽名誉会長



謝辞を述べる小松那珂川吟連会長

「漢詩と諺」シリーズ

No.17

去る者は日に疎し

この言葉は、文選の中に載っている漢詩の中の言葉です。思っている漢詩の中に少し引用させてもらいます。「誰でも人間は少しづつ引退するのが自然なのだ。どんなに年を取っても前と同じように振る舞うというのは思い上がりだと思う。いつかは終わりが来る。いきなり来ることもあるが、少しずつ店仕舞いの用意をするのである」

文選というのは南北朝時代の南朝梁の、昭明太子によって編集された、九詩文集のことです。出典はむずかしいけれど、日本でもよく使われる言葉になっています。

去者日以疎

(去る者は日に以て疎く)

来者日以親

(来る者は日に以て親し)

去ってしまった人とは、日ごと疎遠になり、やつて来て互いに交わっている人とは、日まじに親密さを加えるというのが、この世のなりである。

曾野綾子の「身近整理、私のやり方」という本の中に、(人づき合い、人生の後始末をしていく)という頃があります。「年をとったら少しずつ人間関係の店仕舞いをする」というところが、年を取って行く私達には、参考になると

「私達は相手を完全に理解することなくつき合い、心の奥底までをわからずのままに死んで行く。その虚しさを、私は最近、自然で優しい関係だと思ふようになった。友達とつき合う時、だから相手のことを考えず、相手の望むことだけをしようと思う。そして最後まで相手を深く恨んだり、相手の迷惑も考えずに深く愛したりせず、静かに無言で死んで別れて行きたいと思う。それが出来れば、多分私の生涯は、成功だったのではないかとさえ思うのである」

第39回 県吟連ゴルフコンパ

福岡県吟詠舞道連盟主催の第三十九回ゴルフコンパが、令和五年十二月二十三日(木)祝、「二丈カントリークラブで開催された。

優勝者は掛林綱夫さん。西山啓峰県吟連理事長より優勝杯が授与された。

晴天に恵まれ、絶好のゴルフ日和でした。

当日の上位入賞者

◎優 勝 掛林綱夫 (吟道宰都館)

◎準優勝 藤浪重憲 (吟道宰都館)

◎第三位 森友敏行 (西日本吟詠会)

◎第四位 阪本浩生 (吟道宰都館)

◎第五位 宮本淳一郎 (岩戸昇陽会)

◎第十位 古賀誠一 (宗師範)

西日本吟詠会関係者は、次の通り。



参加者による記念集合写真



「我が家の家宝」

シリーズ ④

準師範 山口 皇陽

私の宝物は、健康と家内です。以前テレビで「なんでも鑑定団」という番組を見まして、先祖代々受け継がれて来た家宝(掛軸や書画など)が出品されていました。残念ながら、そういう価値ある物は、我が家にはありません。

昨年五月、家内は「大動脈弁狭窄症の生体弁手術」を、日赤で受けました。

定期検診で三年前から不整脈が見られ、担当の医師からは「二年前に『そろそろ手術をした方がいい』とすすめられていたそうです。それを聞いた時は、週一回南市民プールで泳いだり、毎日一時間散策したりしていて、お互い健康そのもので元気に過ごしていましたので、とても信じられず、私は猛反対でした。しかし一年半程前に、トイレから出た後、突然失神したのです。三十秒程で意識を取り戻したのですが、日赤の先生に報告して検診すると「最高血流速度(m/s)が3.8だったのが4になっています。これ以

上進むと手術も出来なくなり、何時又狭心症、心筋梗塞の発作が起きるか分かりません。もう限界です。すぐにでも手術をされた方がいいです」と言われ決心しました。

手術は五時間程かかり、医師から「無事に終わりました」と連絡があった時は安堵しました。三週間の入院生活後、退院しました。その間、掃除洗濯、御飯と味噌汁作りなど初めて経験して、家内の有難さが分かりました。最近私も、腰・肩・膝や肘などの関節痛に悩まされるようになりました。いつ何があっても可笑しくない年齢になって来た事を実感しています。健康が一番。趣味の詩吟を生き甲斐に、ストレス解消に役立てて元気になってきた家内と共に、二人三脚でお互い助け合い、支え合つて、残りの人生を過ごして行きたいと思えます。



高齢化の波

宗伝会長代行 高木 仁陽

当会も、指導者会員ともに若い人が少なくなりました。

日本伝統文化振興の遅れもあって、一般的に人口膾炙とはいかなくなっています。

一声二節三音程といわれる吟詠も、入会者が減っていくばかりです。腹式呼吸の発声が健康に良いとされて、二時は会員増の時期もありました。が、入門して漢詩を吟じて

も、和歌を朗詠しても、今いち周囲の人に注目されることもなく、研修時間を沢山労した割には効果薄の感がしてなりません。

宗伝会長代行 高木 仁陽  
当会も、指導者会員ともに若い人が少なくなりました。日本伝統文化振興の遅れもあって、一般的に人口膾炙とはいかなくなっています。一声二節三音程といわれる吟詠も、入会者が減っていくばかりです。腹式呼吸の発声が健康に良いとされて、二時は会員増の時期もありました。が、入門して漢詩を吟じても、和歌を朗詠しても、今いち周囲の人に注目されることもなく、研修時間を沢山労した割には効果薄の感がしてなりません。

俳句三首

太宰府仁陽会

古賀 詩川

肩越しの御慶や

宮の太鼓橋

書初や

大河に遊ぶ 李白の詩

みどり児の

みなにあやされ 初笑い

宗師範 古賀 西陽

令和五年度、第三十六回愛宕校区文化祭が、十月十五日(日)に、四年ぶりに開催されました。

「愛宕詩吟教室」として、平成十九年に愛宕公民館で詩吟教室を始めてから、十四回連続出場しています。私を含め会員さんと五名で、CD伴奏で「降雪」「出郷の作」「九月十三夜陣中の作」「芳野懐古」の独吟、「早に白帝城を発す」の合吟を披露しました。これからも地域活動に貢献するとともに、詩吟普及や西日本吟詠会の会員拡大に努めてまいります。



愛宕校区文化祭参加

新年の漢詩三首

癸卯稱新曆

宗師範 平山 惠陽

旭日昇天歳旦辰

瑞光万里感懷新

一雙鴨鳥睦浮水

數點梅花官領春

旭日昇天歳旦の辰

瑞光万里 感懷新なり

一雙の鴨鳥水に浮んで睦み

數点の梅花 春を官領す

家の近くの橋の上にといたら、

一雙の鴨が、仲良く水に浮んで

おり、心が暖まって、いつ迄も

眺めておりました。

旭の金色、水鳥の碧、梅の紅

の三色の美しさを、詩中に表

現しています。

新年の朝日に、想いを新た

にし、鳥も花も、各々、新春を

我が物にして称え、喜んでいる

さまを詠みました。

新年詣太宰府天満宮

宗師範 船木 燦陽

華表幟旗望碧穹

欣欣賽客往来隆

苑池静水鯉勇躍

梅徑相競紅荅豊

華表の幟旗 碧穹を望み

欣欣たる賽客 往来隆なり

苑池静水 鯉勇躍り

梅徑相競 紅荅豊なり

華表(鳥居)際の祭幡(のほ

り旗)は、青空を望み、欣欣

(楽しそうな)賽客(お参りを

する人々)は、参道をさかんに

往来する。

苑の池は、水静かに、鯉が

時々はねており、曲経に添って

梅花の蕾が、あざやかな紅色

をみせている。

新年の初詣で賑わう、太宰

府天満宮の様子を詠みまし

た。鳥居のそばの祝旗が、青空

にひるがえり、お参り客で参

道は、こつた返している。神苑

の池水は静かに時々鯉がは

ね、曲った小道の傍らの梅は、

防人歌有感

宗師範 中島 光陽

宰都會掌遠朝廷

夷狄攻防築水城

力役丁強愍辜露

詠歌切切不堪情

宰都は曾て遠の朝廷を掌り

夷狄攻防の 水城を築く

力役の丁強 辜露に愍しく

詠歌切々として情に堪えず

その昔、太宰府は「遠の朝

廷」と呼ばれ、外敵との切防に

備え水城を築きました。その

使役を担う防人は東国から

集められた若者が多く、今に

使わる防人歌は、郷里への思い

が深く込められ、私の心にも

哀愁を漂わせます。

この詩は、以前ナレーション

を担当した構成吟「筑紫万葉

歌壇の秀歌を訪ねて」の中で

印象に残った「遠の朝廷」とい

う言葉と、防人のことを詠み

ました。

漢詩教室の初稽古では、こ

の詩を吟じました。

寿楽園教室発表会

師範 柴田 勳陽

去る十月十九日(二十一日、福岡市城南区「老人福祉センター寿楽園」の講座の合同発表会が行われました。

我が教室は二十一日(土)でした。過去二年間は声を出す講座のカラオケや相撲甚句、合唱などは全て中止の中、我が詩吟教室は声を出さないで、テープ等利用し、講師だけの説明の講義形式だけならという条件で、特別許可を得て実施し、二年間耐えてきました。でも何とか頑張りテキストを消化することができました。今年も声も解禁、本番はマスクなしでステージに立てるといふことで、しっかり練習を行いまし

た。本番は「富士山」合吟、和歌独吟、「名槍日本号」今様黒田節入り」合吟をこなすことが出来ました。

教室の指導頑張ります。



第二十五回吟友発表会

師範 柴田 勳陽

九月二十五日(月)に、福岡市城南市民センターで、第二十五回吟友会の発表会が行われました。「コロナに負けるな」と昨年から実施してきました。

なかなか声が出せないと練習が出来ない中、大会に出吟が出来ない会員の皆様は楽しみにしておられました。今回は昨年よりも出吟者が減少しましたが、和気あいあいとやる中でも、みなさん「生懸命によく頑張つて吟じられました。私は司会を担当しました。前田先生の開会の言葉でスタート！我が教室の生徒さんも出演させて頂き、みなさん初めて舞台で吟じる方もおられ、大変な緊張の中「富士山」の合吟を何とか無事にこなしました。とても良い経験でした。

指導者の先生方も十二名独吟され最後に会長の前田明陽先生が「海南行」で締められました。生徒さん達が上手に吟じられたので、かえって指導者の先生方の方が緊張されたようでした。その後秋季大会の男女それぞれ別の合吟の練習をして、檜崎先生の閉会の言葉で散会しました。

次のお楽しみは、十二月の納会です。研修旅行は、しばらくはお預けですが、来年も必ず、吟友会発表会を行うつもりです。



# 有住公民館サークル文化祭

笙陽会 芳澤 佳月

石村笙陽会は、十月二十八日(土)爽やかな秋空の午后、「有住校区秋まつり」に参加させて頂き、有住公民館の特設屋外ステージで、和歌「くれない」と詩吟「熊本城」の二曲を、十二名で多くの観衆を前に、美しい吟声となるよう心がけ、石村先生のご指導に注意して精一杯吟じる事が出来ました。皆様からの盛大な拍手を頂き、会員一同最高の気分でした。たまの緊張、良いものですね。日頃の練習の成果が発揮できたと、嬉しさと喜びで杯でした。今後も詩吟を楽しみとして練習を重ねて参ります。



# 二回目のポリドール全国吟詠決戦大会に出場して

太宰府笙陽会 蒲池 勝峰

初参加の昨年はレベルの違いに圧倒され通しでしたが、今回は人は人自分は自分、「大会では普段の練習通りの吟詠をすることが大切」との先生の教えを胸に大会に臨みました。

私の出場は、午前中が和歌朗詠、昼食・時間後位に吟詠となっていました。

大会が始まり、まず午前中の和歌はなんとか練習通りの朗詠を終えましたが、吟詠については昼食一時間後であることから、普段通り食事をして待機していたところ、出番間近になつてボツとし始め、吟詠本番に集中出来ず誤読・失格となる失敗をしてしまいました。

その上、成績発表の時、席を離れ、「入賞しているよ」と教えられ、驚きと嬉しさはありましたが、直接発表を聞いての感激が無く、私にとつては何とも締まりの無い大会となりました。

普段通りの吟詠をする為には、前提として「如何に集

中出来るようにするか」が大切であるかを再認識させられました。

## 表紙写真説明



竈門神社は、

主祭神に玉依姫命(たまよりひめのみこと)をお祀りしていることから、魂(玉)と魂を引

き寄せる・引き合わせる(依)

という御神徳を慕われ、古くから「えんむすびの神」として広く信仰されてきました。

「縁結び」とは、男女の縁はもちろん、家族、友人、仕事などでの良いご縁を結んでいた

ける神様として広く親しまれています。また古くは、大宰府政庁の鬼門除けとして祈願したことから「方除け」「厄除」の信仰も篤く、現代におい

ても、新たな生活をはじめると、人生の節目を迎えた方々などが参拝に訪れ真摯な祈りが捧げられています。最近では、アニメ「鬼滅の刃」の聖地としてもファンが集い、お子様のご参拝も多く見られます。

また、「100年後のスタウンダード」をコンセプトに設計

されたお守り授与所には、素敵なお守りがたくさんお頒ちされており、毎日多くの参拝者が訪れています。尚、現宮司は西高辻信良様が務められています。

## 課題吟テキストとCD集が完成

### 教材の有効活用を!!

出版部長 中島 光陽

私達会員が、来年春の大会で発表する為に、今年一月から一年をかけて勉強、練習する課題吟詠集のテキストとCDが完成しました。

年末に各指導者に配布されていますので、皆様のお手元に届くことと思います。

両方の素材を有効に使用しながら練習に励んで下さい。

本会のテキストは、昭和六十四年(一九八九年)に、諫山宗家(当時・宗師)により「第一巻」が発行されました。当初は、漢詩、和歌奥伝・皆伝課題が別冊となっていました。その後一冊に纏められました。

爾来、毎年新しい課題詩歌

十七巻(三十七冊)を数えます。

テキストに附随して、当初はカセットテープも作成され、現在は、CD集が、吟詠・和歌・初伝奥伝皆伝と三枚に分かれて発行されています。

音声テープ類は、当初、横馬場翠邦先生、横馬場孝子先生の伴奏でしたが、後に伊地知彰山先生、合屋小夜子先生となり、現在は、制作監修を兼ねて伊地知先生にお願いしています。

吟詠は、初伝以下の部を諫山星陽宗伝副会長が担当し、その他は、諫山宗家が吹き込みを行っています。

お申込み、お問合せは、出版部までご連絡下さい。



よひこそ 西日本吟詠会へ

◆太宰府仁陽会 蒲原 祐子  
◆笙 陽 会 野田 郁代  
筒井 フミ

浄財ありがとうございます  
ごさいました



岸 凜陽先生 宗師範  
岸 凜陽先生は、健康  
上の都合により、十一

月末日で本会を退会されました。この程、過分なる浄財を本会及び関係先にご寄財頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。  
後藤 佳陽

孫と

岩戸扇陽会 久我 節峰

ジャガ芋の畑に蠢く

声上げ寄りゆく虫愛つる姫  
ダンゴムシ

田植え済み赤飯食ぶる

子と孫と  
畑の胡瓜ジャガ芋旨し

いにしえの遠の朝廷の草叢に

花を舞う  
蜂バツタ追う兒と

操りて恐竜カートの四頭を

幼き孫の四回めぐる

庭先のバケツに花火の名残跡

名残跡

孫と過ごせし一夜の夢の

「ジャンケンポン」

微妙に後出し兒の先手  
負ける将棋に知恵をめぐらす

二〇二〇二〇BOX  
浄財ありがとうございます

- ・豊福 恒陽 榑崎 忠陽  
・鳥井 幸陽 森田 綾陽  
・渡邊 昇陽 池田 慧陽  
・高木 仁陽 八尋 征陽  
・諫山 星陽 山口 皇陽  
・山口 呂陽 武内 史陽  
・松嶋 蓮陽 上野 詩陽  
・久保山 孝陽 船木 涼陽  
・平山 恵陽 江藤 炎陽  
・小松 扇陽 郷原 竹陽  
・北川 英陽 松浦 菊陽  
・河原田 和陽 溝口 勝陽  
・岸 凜陽 浦池 勝峰  
・古賀 西陽 折居 英峰  
・吉弘 翔陽 安永 奈峰  
・梁池 梁陽 萱島 桃峰  
・石村 宝陽 益永 時月  
・成海 康陽 泉田 千月  
・橋口 康陽 吟友会一同

行事予定表

令和6年

- 1月6日(土) 新年会
- 2月11日(日) 九吟連筑後大会
- 3月10日(日) 九吟連福岡大会
- 3月17日(日) 春季大会
- 3月23日(土) 毎日吟士権(1日目)
- 3月24日(日) 毎日吟士権(2日目)
- 3月31日(日) 毎日吟士権(北九州)
- 3月31日(日) 県吟連春季大会
- 3月31日(日) 八葉会
- 4月7日(日) 筑連大会
- 4月14日(日) 吟道奉賛会
- 4月21日(日) 桜詠流周年大会
- 4月28日(日) 毎日吟士権本選大会
- 5月6日(月) 祝香雲堂桜村会50周年
- 5月12日(日) 九吟連決選大会
- 6月2日(日) 和歌朗詠大会
- 6月9日(日) 天満宮杯福岡大会
- 7月7日(日) ポリドール九州山口大会
- 8月18日(日) 天満宮杯決選大会
- 9月3日(火) 授伝審査大会
- 9月29日(日) ポリドール全国大会
- 10月6日(日) 95周年大会
- 10月13日(日) 太宰府市吟連大会
- 11月10日(日) 九吟連秋季大会
- 12月1日(日) 日総連九州大会

2024



訂正とお詫び

九吟連決選大会の高齢者一部で優勝されていた

石橋忠夫様(忠陽会)

のお名前を書き落しておりました。誠に申しわけございませんでした。

ここに訂正して、お詫び申し上げます。



崇敬会会員を募集しています  
貴方も会員になりませんか？

私達は、太宰府天満宮崇敬会に入会、西日本吟詠会支部会員として、年1回の清掃奉仕活動のほか、天満宮様主催の旅行会や、崇敬会奉幣大祭に参加させて頂いています。

特に、大祭での講演会は、毎回著名な講師による素晴らしいお話を聞くことが出来、大好評です。又、会員には為になる会報や有難いお札等も配布されます。正会員と家族会員があります。入会ご希望の方は、秘書部まで、お申し込み下さい。

亀井神道流西日本吟詠会

ホームページご紹介

ホームページアドレス  
https://kameigin.com/



編集後記

今回も行事が多くて忙しい半年でした。

誦山会長の御入院には驚き、あわてましたが、無事御快復になられて安心しております。

今年も部員一同、気持を新たに頑張ります。



広報部員

- 広報部長 .. 船木 燦陽
- 部長代行 .. 山口 皇陽
- 部員 .. 船木 涼陽
- .. 林谷 典陽

発行者 亀井神道流西日本吟詠会  
事務局 那珂川市道善三六 渡邊昇陽方  
印刷所 井上紙工印刷株